

はじめに

2014 年 12 月、JICA 筑波研修業務の一環として、ネパールを訪問し、帰国研修員の活動視察を実施した。本シリーズではその視察結果に基づいて、本邦研修で得た知識・技術の現地での活用事例や本邦研修が研修員へ与えた影響、そして今後の課題について、全 4 回にわたって報告・検討したい。今回は第 1 回目として、調査の背景と概要について説明する。

これまでも当社では帰国研修員の活動状況の把握や支援を目的とした独自のフォローアップ調査を、2005 年にはボツワナ、2010 年にはマラウイ、ザンビア、2012 年にはエルサルバドル、ニカラグアにて実施してきた。いずれの調査でも帰国研修員の意欲的な活動が見られ、本邦研修の成果が帰国後の活動に与えるインパクトが確認された。また同時に帰国研修員が抱える課題も確認された。得られた結果は研修業務の質的向上に反映させるよう取り組んでいる。これらの成果については AAINews 第 70～72 号「近くて遠い友人たち」、第 81～84 号「中米帰国研修員活動報告」で詳しく報告している。

今回の視察はこれまでの当社の独自調査とは異なり、JICA 筑波地域別研修「小農支援のための野菜栽培技術とマーケティング手法」の業務の一環として、「帰国研修員の現地活動視察および活動指導」を行い、「現地視察を踏まえた次年度研修実施に向けての提言とまとめを行う」ことを目的として実施した。

その結果、帰国研修員からは様々な工夫をしながら本邦研修を活用している事例が示され、日本の栽培技術がネパールでも適応可能だということが確認することができた。また研修員の専門知識・技術の向上し、普及員としての資質が向上していることも示唆された。そして今回の調査で興味深かったのは、これら専門知識・技術のみならず、本邦研修の経験が個人の内面性まで影響を与えていることが明らかになったことである。これらの結果は次回以降に具体的に報告していくこととする。

視察対象としたのは 2002～2013 年に JICA 筑波野菜栽培技術関連コースに参加した 10 名のネパールの帰国研修員で、全員が農業改良普及所 (DADO : District Agriculture Development Office) に

勤務する普及員であった。ネパールを視察対象国としたのは、当該研修コース対象国の中で、これまで JICA 筑波で実施された野菜栽培技術関連研修コースに参加した帰国研修員数が最も多く、また全員が DADO で業務を継続していることが明確で、研修実施に向けた提言を効率よく得られることが見込まれたためである。

調査に先立ち、事前アンケートを実施し、主として本邦研修を通じて習得した知識・技術の活用事例と活用のためのポイントおよび問題点について、およその情報収集を実施した。その結果を参考に JICA ネパール事務所にて、個別インタビューとグループ討議を実施した。

グループ討議は帰国研修員間で本邦研修活用の事例を共有すると共に、活用技術の傾向や活用のためのポイントを討議する目的で実施したが、参加者からは「他の帰国研修員となかなか会えない状況で、経験を共有することができ、今後の励みになるいい機会であった」との感想を得ることができ、個々の帰国研修員がひとつのチームとして結束された感があった。

【追記】

今回のネパール訪問にはもうひとつ一つの楽しみがあった。それはもちろん旧知の友人たちとの再会である。日本で 9 か月という時間を一緒に過ごした研修員たちにはそれぞれに思い出があり、また初めて会う研修員たちとも日本での思い出話に花が咲いた。ネパール大地震のニュースがあったのはそれから 4 か月半が経った、ちょうどこの原稿の執筆に取り掛かっているところであった。すぐに皆の安否を確認し、全員無事との連絡に胸をなでおろしたものの、ある帰国研修員は家が全壊し、仮設住宅での生活を強いられているとのことであった。

ネパールの日も早い復興を心から願っている。

JICA 筑波野菜栽培技術関連コース 帰国研修員 (2002～2013年)

	<b>Mr. Hari Prasad Gurung (VC2002)</b> High Value Agriculture Project の No.2。タマネギ採種で修士論文を執筆した。		<b>Mr. Sandesh Dhital (VC2011)</b> 農家研修に野菜栽培のトピックを付加。ビートのマルチ試験などを実施中。
	<b>Mr. Deepak Poudel (VC2005)</b> 普及所所長。雨よけトマト栽培はじめ各種栽培技術を現場に普及。		<b>Mr. Kiran Sigdel (VC2012)</b> カルダモン苗生産担当。カルダモンに対する黒マルチの適応試験などを実施。
	<b>Mr. Shrestha Sudhir (VC2010)</b> 種子生産センターで農場長を3年半務め、トマト交配採種技術などを導入した。		<b>Mr. Ajaya Adhikari (VC2012)</b> 技術普及員として活躍中。他センターや試験場にも野菜栽培講師として招かれる。
	<b>Mr. Arun Kafle (VC2010)</b> 技術普及員、種子生産農場長を歴任。農業機関誌に技術記事を執筆。		<b>Mr. Bala Krishna Adhikari (VC2013)</b> 普及所所長。本邦研修で身に付けた論理的な考え方が現職に役立っている。
	<b>Mr. Padam Bahadur Subedi (VC2011)</b> 普及員として野菜栽培技術を農家に指導。現在は大学の修士課程に在籍中。		<b>Mr. Bishnu Bogati (VC2013)</b> 技術普及員として活躍中。パレイシヨのブランド化やタマネギ施肥試験を実施。